

## 施工員コーナー ～第3回～

夏も本番になり、害虫の活動も活発になってきました。

ゴキブリ駆除の新規施工に行き、良く目にするのが、厨房什器下のゴミです。食材やビニールなど、お店の雰囲気とは裏腹に想像を絶する程、ゴミが溜まっている事もあります。



そんな時、我々FCCではゴミをかきだす専用のかきだし棒を使い、全てのゴミを除去していきます。市販で売られているホウキでは入らない箇所にもかきだし棒は入り、隅々までゴミをかきだせます。

実はこのかきだし棒は販売もしています。



夏で暑苦しく害虫が最も活動する時期だからこそ、什器下のゴミを無くし、快適な厨房環境を作るのはいかがでしょうか？

ゴキブリだけではなく、カ、ハエ、チョウバエなどの飛来昆虫などを住みにくくするだけでは無く、食中毒菌にも効果は絶大です。



一度什器下を覗いてみて、ゴミが溜っている様では赤信号。

快適な厨房環境を共に作りしたいと思います。

### ゴミかきだし棒



ホウキでは届かない狭い箇所や入り組んだ所、什器の奥に入り込んだゴミでも隅々までかき出す事が可能です。

清潔な厨房環境を保つのに、非常に効果的なアイテムになります。

ゴミかきだし棒  
¥2,625(税込)  
※送料は発送方法によって異なります。

# FCC News

## 2009年8月号

NO.0066



- 目次 -

チョウバエ対策

新しい仲間が増えました！

施工員コーナー

環境コラム

衛生コラム

季節のムシ暦(21)

地球の環境衛生を創造する  
株式会社 FCC  
fine, comfortable & creative

## 株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail [info@fccsystem.co.jp](mailto:info@fccsystem.co.jp)

## チョウバエ対策

～特徴と生態～

チョウバエは、その名の通りハエの一種のように思えますが、実は見た目が似ているハエや蛾ではなく蚊に近い昆虫です。

チョウバエの多くの種類は湿地や沼地などの水際で、人目に触れない為、不快害虫には見えませんが、一部の種類は人家のトイレやお風呂などの排水溝や下水管などに溜まった有機物がヘドロ状になった物(スカム)に生息し大発生する為、不快害虫として問題になる事が多くあります。

チョウバエの対策としましては、幼虫と成虫それぞれ2種類の対策が必要になります。

～幼虫対策～

チョウバエの幼虫は、スカム(溜まった汚れ)の中に潜って生息しています。ですので、排水溝のヌメリや浴槽の底など、チョウバエが生息している箇所の徹底した掃除が重要です。主に、側溝の壁面や、排水溝のヌメリ、浴槽の底、浴槽のエプロンの裏などに生息している場合が多いので、そこに溜まっているスカムを取り除きましょう。



幼虫は空気呼吸をしているので、水を流せば溺れますが、その際に界面活性剤入りの洗剤を少量混ぜたり、50℃以上のお湯を用いると、より効果的です。

スカムは水だけでは簡単に落とせないで、古くなった歯ブラシなどで擦り落としたり、重曹やクレンザーなどを使用し、完全にスカムを無くしてください。



～成虫対策～

### ①成虫の侵入防止

基本侵入を防ぐ事が重要です。窓やドアなどを開けたままにしない事や、排水溝や浄化槽、マンホールなどを定期的に点検し、隙間を防いだり、清掃を行うなど、侵入対策を行いましょう。

### ②成虫の殺虫

チョウバエの成虫は基本、幼虫と同じく水に弱いことと、50℃以上の環境では生息出来ない特徴を持っています。ですので成虫に対しては、50℃以上のお湯を流しかける方法が効果的です。また漂白剤などを少量混ぜたお湯を流すと、更に効果的です。

### ③捕獲する

チョウバエはハエ取り専用の粘着シートなどでも、効率よく捕獲出来ます。比較的、足元付近など下の方を飛んでいるので、設置する際は足元などの邪魔にならない様に設置する事をお勧め致します。

また、弊社で販売しているムシポンという環境や人体に優しい飛来虫捕獲機があるので、そちらの使用もお勧めです。

### FCC®ムシポン

光で虫を誘い、専用の粘着タイプの捕虫紙で捕らえる、環境や人体にも優しい飛来虫捕獲機です。工場向きの吊り下げタイプと飲食店向きのインテリアタイプの2種類をご用意してます。

詳しくは弊社ホームページにて

→<http://www.fccsystem.co.jp/shop/konchu.html#k01>



## 新しい仲間が増えました！

氏名：堀 祐一郎  
年齢：21歳  
誕生日：1987年7月2日  
血液型：B型  
趣味：サーフィン、筋トレ、カラオケ  
一言：新入社員らしく明るく元気に仕事したいと思ってるのでよろしくお願いします。





【夏の夜の悪ムシ、ドクガに用心】

夏は、キャンプや虫捕りなどと野外活動が盛んになる。それに伴い、虫とのトラブルが増えて来る。昨年、相談の多かった虫は、ハチ類が、ナンバー・ワンで、時期的には、7月から8月にかけてが、ピークであった。何故、ハチ類が多かったのか、それは、環境の都市型化だと云う説もある。今回は、都市型化によって虫の密度や被害件数が、減ったとは云われるが、気の許せない「毒蛾(ガ)」について紹介する。

ドクガ被害の歴史

ドクガ(毒蛾)は、有毒鱗翅類と云われ、チョウ(蝶)の仲間である。わが邦で良く知られているものは、チャドクガ、タケノコクロバ、クヌギカレハ、ヤマダカレハ、マツカレハ、アオイラガ、ヒロハリイラガの類である。

しかし、この中には、急激な都市型化の中で姿を消したものもある。ドクガの被害が、最初に記録に残ったのは、明治22年からで、宮城県、岩手県、山形県、秋田県および千葉県で異常発生したと云うものである。

ドクガの過去の発生は、当時の国立予防衛生研究所の朝比奈正二郎博士と緒方一喜博士によりまとめられている。これによると昭和30年(1955)に最大の異常発生があった事が示されている。

それによると全国の届出があった被害者数は、224109名に達したと云う。この数は、最近、大騒ぎした「新型インフルエンザ」の比では無いレベルである。

その内、最も被害者の多かったのは、名古屋市中、その数、157450名に達したと云う。たかが「ドクガ」と云うが、今、思うと恐ろしい数である。

ドクガとはどんな虫か

ドクガは、英名をOriental tussock mothと云い、草むらに普通に居る「ガ」である。大きさは翅の開長が約30ミリで、黄色をしている。

その生活史は、年1回の発生であるが、その発生ピークは6月中旬から7月中旬にかけてである。

産卵された卵は、17日前後で孵化し、幼虫となってクヌギ、サクラ、ヤマツツジなど100種以上の植物を加害する。

12回の脱皮を繰り返して、11月頃に木の根元や干草の間に造巣、集団で越冬休眠する。これが、翌春の4月頃に休眠がさめて成長を続ける。

ドクガの被害は、「ドクガ皮膚炎」で、幼虫の「毒針毛」によるものである。夏の夜、燈火に飛来した「ガ」が、毒針毛をつけた体毛や鱗粉を撒き散らすので、これが皮膚にすり込まれて発症する。

症状としては、皮膚に発赤や水泡が出来、激しい痒みが2〜3週間も続く。問題の毒針毛は、幼虫(毛虫)時代の毒毛が、そのまま残ったものである。なお、毒針毛を持っているのは、雌のガであって、これが産卵する時、卵に付着して残ると云う。

この毒は、ヒスタミンであるが、エステラーゼ、ホスホリパーゼ、キニノゲナーゼなどの酵素も存在しているようだ。皮膚炎を防ぐには、肌に着着した体毛をこすらずに、「水」で洗い流すと良い。また、粘着テープで取りのぞくと良い。不幸にして、炎症が起った場合は、抗ヒスタミン剤の内服か、抗ヒスタミンを含むステロイド軟膏を塗布する。

いずれにしても、燈火に飛来する「ガ」には、用心する事である。ドクガ以外の問題のガには、チャドクガ、タケノコクロバ、マツカレハなどがある。

チャドクガは、6月から7月と10月頃の年に2回の発生をみる。ツバキ、サザンカなどを食草とする。被害は、幼虫によるものが多いので、庭木の手入れの時には用心を。

タケノコクロバは、竹やササの葉を食草としているので、竹やぶ、ササの繁みに入る時には用心のこと。夏とは云え、野外活動には、長袖・長ズボンを着用すること。

ドクガは、都市部では激減したが、自然を残す山や農村部では油断の出来ない虫である。

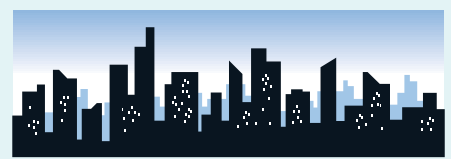


【写真説明】

ドクガの成虫、かつて全国で20万人を越す被害者を出したムシ。

環境コラム ヒートアイランド現象

コンクリートの建築物やアスファルトで覆われた道路などは、太陽の熱を吸収しやすく、水分蒸発による冷却効果が少ない性質を持っています。



都市部ではコンクリートの建築物やアスファルトの道路などが集中しているため、真夏などに気温が著しく上昇する『ヒートアイランド現象』が起き、大きな影響を受けています。

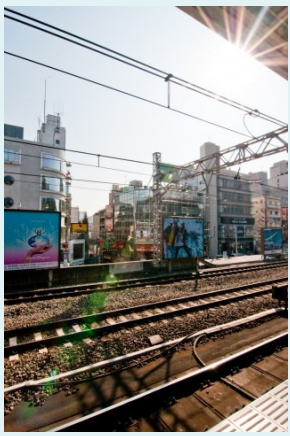
また、都市部にはオフィスビルから出るエアコンの排気熱、車の排気ガスなどを始めとした人口廃熱も集中しているため、更に気温が上昇する傾向にあり、気温が上昇すると人々はエアコンをフル活動させ、更に排気熱が増えて気温が上昇すると言つ悪循環になっているのが現状です。

このヒートアイランド現象は、光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントの増加や、局地的な集中豪雨『ゲリラ豪雨』を引き起こす原因とも言われ、様々な環境問題への影響が懸念されています。更に環境だけでなく、著しい気温の上昇により、熱中症などの人体への危険性も増大します。

ヒートアイランド現象の対策として現在、

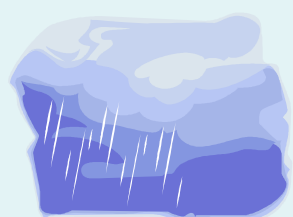
- ① 太陽光の吸収量を減らす
② 廃熱を減らす
③ 冷却効果を高める

を目的に、緑のカーテン(壁面や屋上の緑化)や水辺の整理、打ち水など、緩和策が取られています。しかし、このような政府規模の対策だけでなく、私たちの意識や行動も変えなければ、このヒートアイランド現象はますます悪化するでしょう。



衛生コラム 水周りの湿気対策

梅雨も明け、やっと夏本番かと思いましたが、ゲリラ豪雨など、まだまだ雨や湿気が多い天気が続いていますね。



湿気が多いと台所やお風呂、洗濯機などの水周りでは雑菌が繁殖しやすい上に、カビが大発生する可能性が高いので、まだまだ注意と対策が必要です。

カビや雑菌は喘息やアトピー、アレルギーなどの原因とも言われており、人体に様々な悪影響をもたらすので対策はしっかりと行わねばなりません。

- 水周りでは
① 充分な換気
② 水周りの環境を清潔に保つ
をポイントに対策を行いましょ。

まず①の充分な換気ですが、お風呂はカビや雑菌の宝庫ですので、換気扇を回したり、窓を開けるなどして湿気を外に出しましょ。

また、お風呂の使用後などに冷水を壁面や床などに掛けるのも効果的です。

洗濯機は、脱いだ衣服を洗うまで洗濯機に入れたままにせず、通気性の良いカゴなどに入れておくのが良いでしょう。

衣服に付着した皮脂や汚れなどは雑菌やカビが繁殖する元になり、更に洗濯機の中へ入れたままですと通気性が悪いので、繁殖しやすい環境になります。

②の水周りの環境を清潔に保つでは、台所の対策になります。台所では食材のカスや飛び散った汁などを、直ぐに拭き取ったり掃除する事で、雑菌とカビの繁殖を抑制出来ます。

